



MARUHA NICHIRO

ダブルウェーブレポート 2013

株式会社マルハニチロホールディングス 株主通信

第9期

2012年4月1日 ▶ 2013年3月31日

トップインタビュー Q&A

収益力の強化と海外展開の
本格化に向けて、
実りある施策を
実施できた1年でした。

代表取締役社長 久代 敏男

特集 MARUHA NICHIRO KEY FIGURE

マルハニチロの“ここ”がすごい

海外現地レポート MARUHA NICHIRO in the World

世界各国へ、
安定した品質の商品供給を。

マルハ(N.Z.)コーポレーション 取締役 八幡 浩史



証券コード：1334

世界に美味しいしあわせをお届けする マルハニチログループの「3つの事業」

マルハニチログループは、世界屈指の水産物調達力を誇る「水産事業」と、商品開発力を発揮した豊富なラインアップを有する「食品事業」、その2つの事業を冷蔵倉庫ネットワークで支える「保管物流事業」で、世界中の人々に美味しいしあわせをお届けしています。



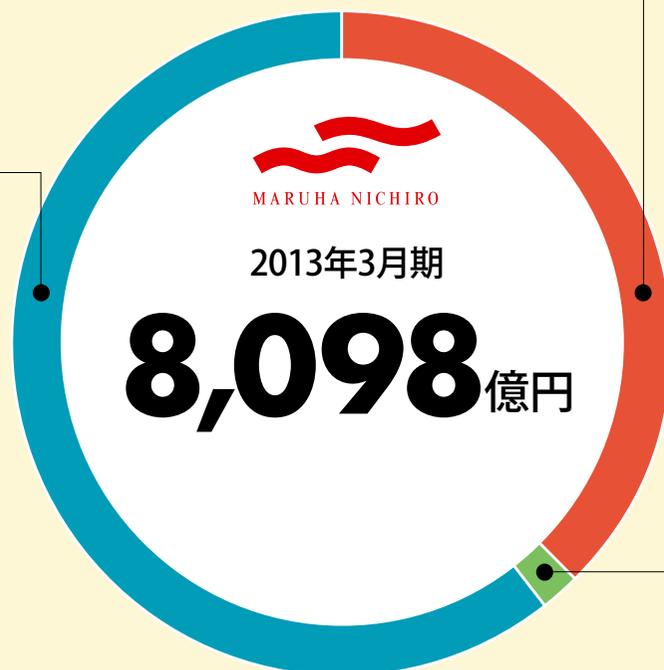
水産事業

4,865 億円 **60.1%**

世界最大規模の 水産物サプライヤー

世界最大規模の水産物取り扱い量を誇り
漁業・養殖・買付・加工・販売までの
一貫したサプライチェーンを構築しています。

売上高構成比率



食品事業

3,025 億円 **37.4%**

幅広いジャンルの商品を 取り扱う総合食品メーカー

世界中から調達した厳選素材をもとに
冷凍食品や缶詰、レトルト食品、畜産品などを
開発・製造・販売の一貫体制で提供しています。

保管物流事業

154 億円 **1.9%**

日本有数の物流量を誇る 総合物流サービス

国内外をつなぐ拠点と全国の輸配送網で
“安全とおいしさを維持する”
ロジスティックサービスを実現しています。

収益力の強化と海外展開の本格化に向けて、 実りある施策を実施できた1年でした。



代表取締役社長 久代敏男

Question 1

厳しい事業環境が続いていると思いますが、
当期(2012年度)の業績について教えてください。

Answer 1

冷凍食品や高付加価値水産商品など、
好調な分野もあったものの、
全体としては減収減益となりました。

水産・食品業界は、消費者の根強い低価格志向に加え、原材料価格の高騰などの影響もあり、引き続き厳しい事業環境にあります。当期は、前期における震災特需の反動もあり、より厳しい環境下にありました。個別事業を見れば、ヤヨイ食品(株)の買収によって総合力が増した冷凍食品ユニット、量販店やコンビニエンスストアに向けた高付加価値水産商品の提案が奏功した戦略販売ユニットなど、大幅な増収増益を達成

できた事業もありました。しかし、消費者の「魚離れ」による需要減少や価格下落の影響が大きい荷受ユニットなどの低迷を補うには至らず、全体としては、遺憾ながら減収減益となりました。

2013年度の数値目標

2012年度実績		2013年度計画
8,098 億円	売上高	8,450 億円
120 億円	営業利益	180 億円
3.3%	ROIC	5.1%
2,779 億円	有利子負債残高	2,750 億円
858 億円	海外売上高	1,000 億円

2013年5月7日開示の決算短信において見直した数値目標を記載しております。

Question **2**

中期三ヵ年経営計画の2年目を終えて、現時点での進捗状況を教えてください。

Answer **2**

事業の“選択と集中”を実施し、グローバル化の準備を着実に進めています。

現在、当社グループが推進している中期三ヵ年経営計画「ダブルウェーブネクスト」は、旧マルハと旧ニチロが経営統合を果たした翌年からスタートした前計画を受け継いだものです。本計画のテーマは、前計画の3年間で得られた成果を生かし、次期計画でめざす“真のグローバル水産・食品企業”への飛躍に向けて基礎固めを図ることです。その2年目となる当期は、統合によって強化された経営資源をより効率的に活用でき

中期三ヵ年経営計画の位置づけ



るよう、“選択と集中”を進めた1年となりました。具体的には、コア事業へのさらなる経営資源の集中を目的として、(株)函館国際ホテルの譲渡を行いました。また、引き続きグループ内の重複機能の合理化の

推進に努めました。その一方で、今後の成長が期待できる中核事業に対しては、収益力の強化に向けて、集中的な投資を進めました。国内での設備投資やM&Aはもちろん、海外にお

いても今後のグローバル展開への布石となる投資を実施しました。

さらに、資本効率の向上と株主のみなさまへの利益還元を目的として自己株式取得と消却を実施するなど、財務体質の改善にも注力しました。

こうした取り組みによって、徐々にではありますが、自然体で利益を生み出せる「筋肉質」な会社へと生まれ変わりつつあると考えています。



Question 3

中期三ヵ年経営計画で掲げた戦略について、この1年で実現できたことを教えてください。

Answer 3

大洋マイクロネシア社の設立や、ヤヨイ食品(株)の子会社化など、今後の成長が見込める成果があります。

中期三ヵ年経営計画「ダブルウェーブネクスト」では、「収益力の強化」「財務体質の改善」「海外市場への展開」「震災からの復興」という4つの事業戦略を掲げています。当期はそのすべてにおいて、着実な成果を挙げることができました。

まず、「収益力の強化」としては、各事業で今後の成長が期待できる大きな成果がありました。水産事業では、中西部太平洋におけるカツオ資源の安定確保を目

的に、マイクロネシア連邦との海外まき網合弁会社大洋マイクロネシア社を設立し、初年度から好業績を達成しました。食品事業では、業務用冷凍食品に強みをもつヤヨイ食品(株)を買収。以前から得意とする市販用とあわせて、冷凍食品市場全体でトップクラスの事業規模となりました。



カツオの海外まき網漁業を行う合弁会社大洋マイクロネシア社を設立



業務用冷凍食品の分野に強みをもつヤヨイ食品(株)の子会社化

「財務体質の改善」としては、先述した施策によって、統合以前に3,440億円あった有利子負債が、当期末には2,779億円まで減少できました。中期三カ年経営計画で掲げた来期末までに2,750億円という目標は十分達成可能だと考えています。「海外市場への展開」については、アラスカにおけるサーモン加工設備の増強に加え、先述した中西部太平洋での取り組み、オランダの水産物販売会社への出資決定、タイの冷蔵倉庫増設など、グローバルな視点でさまざまな施策を実施しました。さらに、韓国企業と共同で、精製魚油を原料とした医薬品分野への供給が可能となる高純度EPAの製造工場を建設するなど、化成品事業で新たな分野への参入を開始しました。最後に「震災からの復興」ですが、生産能力への影響については、すでにグループ会社などへの生産移管によって復旧が完了しています。現在は震災の経験を踏まえたBCP(事業継続計画)の見直しに、グループ全体で取り組んでいるところです。

Question **4**

最後に、次期中期三カ年経営計画の内容も含めた今後のビジョンを教えてください。

Answer **4**

拡大する海外市場への飛躍を果たし、持続的な成長を実現します。

2013年度は中期三カ年経営計画「ダブルウェーブネクスト」の最終年度であり、次期中期三カ年経営計画の策定を進めていく節目の年でもあります。

次期計画は、これまで積み重ねてきた経営統合の成果を最大限に生かした“攻めの計画”になると考えています。そこで目標となるのは、海外市場をターゲットとした“真のグローバル水産・食品企業”への飛躍です。今後も拡大を続ける海外市場での展開強化に向けた基盤づくりを推進することで、当社グループは

持続的な成長を実現していきます。また、今後さらなる大型設備投資や、海外事業の本格化、グループ内の活発な人材交流などを推進して



いくため、統合の総仕上げとして、主要事業会社5社を合併することを発表しました。この合併により、経営効率の改善を進め、より強靱な企業体質づくりを図ってまいります。株主のみなさまには、引き続きご指導、ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長 久代 敏男

2012年度の 営業概況

東日本大震災の復興需要、昨年末以降の金融政策による景況感好転への期待感があるものの、長引く欧州経済危機、貿易赤字の拡大、企業の設備投資の低迷など懸念材料が多く、景気回復への模索が続きました。このような状況のなか、水産・食品業界では、世界各地の異常気象や急激な円安による原材料価格の高騰、消費者の根強い低価格志向など、引き続き厳しい事業環境となりました。

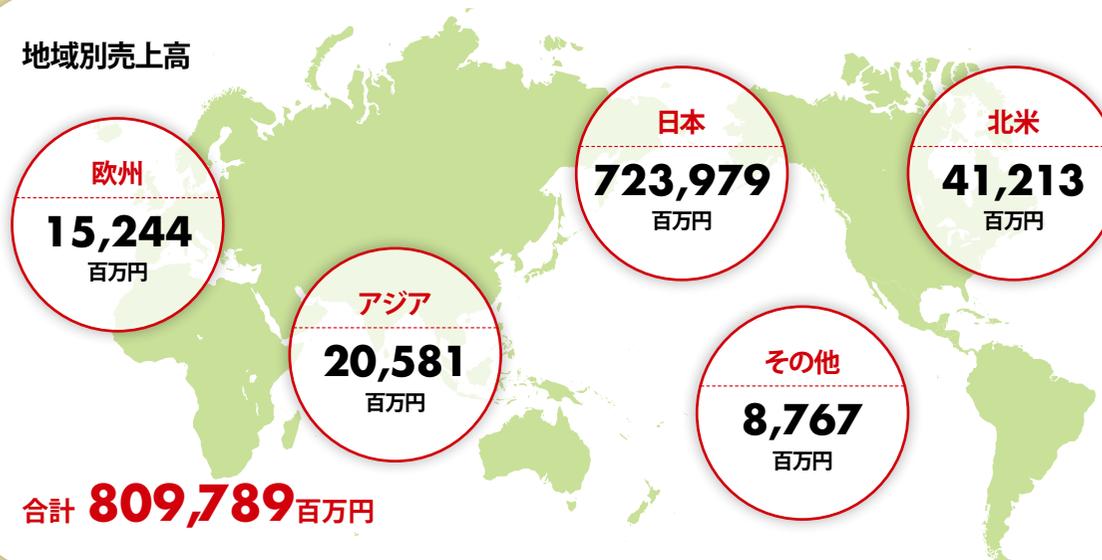
当社グループは中期三カ年経営計画「ダブルウェーブネクスト(2011-2013)」の2年目となる当期の目標達成に向け、冷凍食品事業会社の買収や不採算子会社の売却等事業の“選択と集中”を進めるなど、収益力のさらなる強化と資本の最適化に努めました。

その結果、売上高は809,789百万円、営業利益は11,996百万円、経常利益は13,250百万円、当期純利益は5,448百万円となりました。

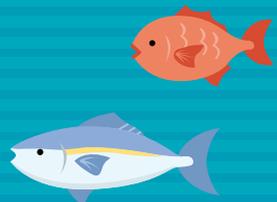
(単位:百万円)

財務ハイライト	2011年3月期	2012年3月期	2013年3月期
売上高	823,399	816,121	809,789
営業利益	17,418	16,431	11,996
経常利益	15,083	14,878	13,250
当期純利益	3,606	3,385	5,448
総資産	474,281	468,054	462,925
純資産	71,671	73,737	82,679
1株当たり当期純利益(円)	6.66	6.38	10.62
1株当たり純資産(円)	101.93	106.61	126.89
自己資本比率(%)	12.4	13.1	15.0

地域別売上高



水産事業



国内外の漁業・養殖ユニット、すりみの生産販売を中心とした北米ユニット、海外調達ネットワークを持つ水産商事ユニット、市場流通の基幹を担う荷受ユニット、および市場外流通を受けもつ戦略販売ユニットから構成され、国内外の市場動向を注視しながらお客さまのニーズに対応した的確な買付販売と加工事業の強化により、収益の確保に努めました。

売上高 …………… **486,469** 百万円

セグメント利益 …………… **4,083** 百万円

2012年度の取り組み

● 漁業・養殖ユニット

漁撈事業は海外まき網が順調に推移したものの、沖合まき網の不振、養殖事業はマグロの売価が上昇したもののカンパチの相場の低迷が続き、全体では減収減益となりました。

● 北米ユニット

ベーリング海スケソウダラ漁獲枠の順調な消化やスケソウダラすりみの順調な販売およびアラスカズワイガニ漁獲枠の増枠による取り扱い増があったものの、ベニザケ・マスの貧漁による取り扱い減などにより、減収増益となりました。

● 水産商事ユニット

既存チャネルへの積極販売とお客さまのニーズに対応した商品開発や加工事業の強化に努めましたが、世界的な水産物の消費拡大や昨年末以降の円安による調達コストの上昇に対し販売は低価格競争が続ぎ、減収減益となりました。

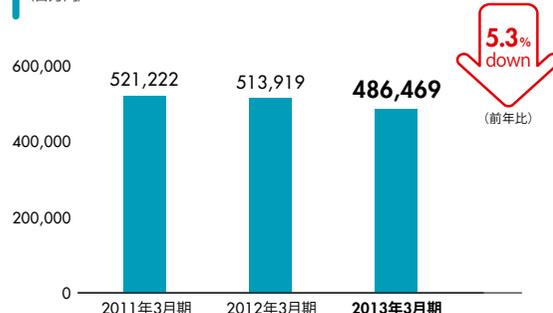
● 荷受ユニット

水産物の消費低迷と市場流通の縮小により取り扱い量が減少するなか、冷凍サケ・マスの相場下落の影響を大きく受け、大幅な減収減益となりました。

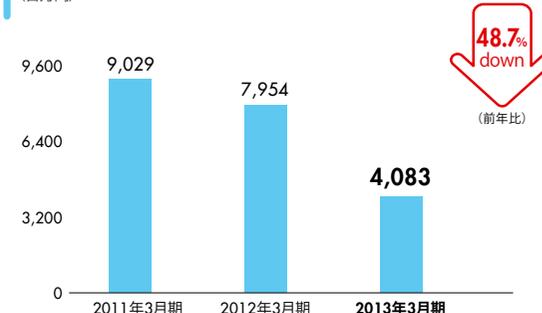
● 戦略販売ユニット

エビ・特種商材・冷凍魚加工品を中心に量販店・コンビニエンスストア・外食寿司業態へ積極的に販売を行い、増収増益となりました。

売上高推移
(百万円)



営業利益推移
(百万円)





カツオ・マグロの主要な漁場、ナウル協定内水域で まき網船がミクロネシア連邦に船籍替えして操業開始

Taiyo Micronesia Corporation

大洋エーアンドエフ(株)とミクロネシア連邦の合併会社大洋ミクロネシア社は、大洋エーアンドエフ(株)が保有していた海外まき網船1隻を購入し、船籍を日本からミクロネシア連邦に転じて、2012年5月に操業を開始しました。初出漁後、約1ヵ月で1,000トンを超えるカツオを漁獲し、順調なスタートを切りました。カツオ・マグロの世界最大漁場であるこの水域では、ミクロネシア連邦を含む中西部太平洋海域島嶼国8ヵ国が「ナウル協定」という漁業の島嶼化政策を進めています。この協定により、外国船は入漁隻数制限や高額

の入漁料を課せられますが、自国化した外国船は優遇されます。今回のまき網船の転籍によって協定の利点が生き、グループ内への安定的なカツオ・マグロ原料の供給に取り組むことが可能になりました。また、ミクロネシア連邦は、人口11万人のうち2割が日系人という、日本との友好関係が歴史的に深い国でもあります。大洋ミクロネシア社は、限りある水産資源の資源管理に取り組むとともに、この地域の産業振興や生活水準向上などにも貢献することで、長期的に良好な協力関係を築いてまいります。



欧州販売の強化に向けて オランダの水産物販売会社に出資

Seafood Connection Holding B.V.

(株)マルハニチロ水産は、オランダ・ドイツ・ポーランドを中心とした欧州市場での販売網を構築しているオランダ・ウルク市のシーフードコネクションHD社への出資を決定しました。

シーフードコネクションHD社は、オランダとポーランドに水産物販売会社を保有しています。これまで当社グループではオランダ・アムステルフェーン市にあるトランスヨーロッパ・シーフードセールス社を欧州の販売拠点として展開してきました。

シーフードコネクションHD社が加わることで、北米現地法人からのアラスカ水産物、当社グループ商材の欧州販売を強化し、海外販売を拡大してまいります。

欧州での販売先は食品メーカー、量販店向け加工業者、レストランなどへの業務卸など多岐にわたっています。また、健康志向の高まりから、日本食がブームになっており、寿司種商材の取り扱いも増えてきています。



食品 事業



市販用および業務用冷凍食品の製造・販売を行う冷凍食品ユニット、缶詰・フィッシュソーセージ・ちくわ・デザート・ペットフード等の製造・販売を行う加工食品ユニット、畜産物・飼料を取り扱う畜産ユニット、化成品・調味料・フリーズドライ製品の製造・販売を行う化成品ユニット、およびアジア・オセアニアユニットから構成され、お客さまのニーズにおこたえする商品の開発・製造・販売を通じて収益の確保に努めました。

売上高 …………… **302,452** 百万円

セグメント利益 …………… **8,545** 百万円

2012年度の取り組み

● 冷凍食品ユニット

東日本大震災での工場被災の影響による他工場への生産移管・被災工場の復旧等の回復策やテレビコマーシャル等の積極的な販売施策が功を奏したことに加え、業務用重点カテゴリー商材の伸長、ヤヨイ食品(株)の連結子会社化等もあり増収増益となりました。

● 加工食品ユニット

ペットフード・飲料の販売不振、および被災工場の閉鎖にともなう東日本地区の市販用ちくわ事業からの撤退等により減収、ペットフード・飲料の売上減や原料高および缶詰の販促費用の増加等により減益となりました。

● 畜産ユニット

国内加工品の生産が順調に推移したものの、海外産地相場の上昇、円安の進展が影響し、輸入豚肉を中心に取り扱いの減少を招き、減収減益となりました。

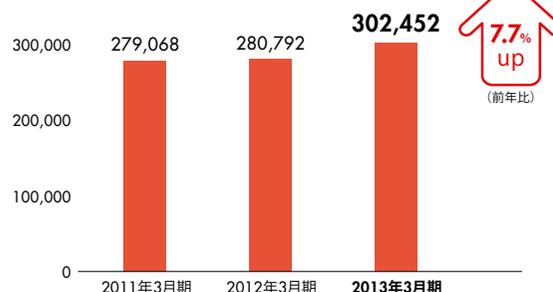
● 化成品ユニット

エキス調味料類やサケ白子関連等、販売が好調な製品群もありましたが、培地用エキスとバイオ関連サプリメント類の不振が影響し、減収減益となりました。

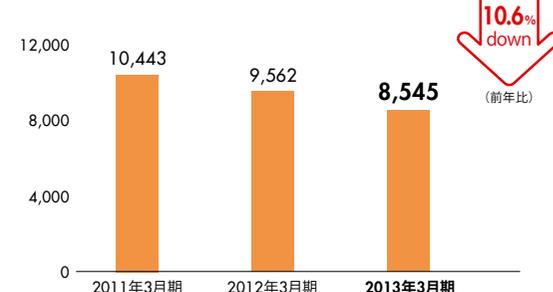
● アジア・オセアニアユニット

タイにおいて生産された日本市場向けの冷凍食品の販売および、北米・オセアニア・日本向けの缶詰の販売が好調に推移し増収となりましたが、カツオ・エビ等の原料高による利幅縮小で減益となりました。

売上高推移
(百万円)



営業利益推移
(百万円)





食品事業トピックス

業務用冷凍食品分野のパイオニア、ヤヨイ食品(株)がグループの傘下に

食品事業の基幹である冷凍食品事業の拡大に向けて、(株)マルハニチロ食品は、業務用冷凍食品分野のパイオニアであるヤヨイ食品(株)を2012年6月に子会社化しました。これにより、当社グループの冷凍食品シェアは市販用と合わせて業界トップクラスとなりました。

ヤヨイ食品(株)は、中食市場、外食市場、給食市場のさまざまな分野に向けて、コロッケ・メンチカツ・ハンバーグ・グラタン・パスタ・デザート・介護食品など、幅広い商品を製造しています。静岡県静岡市、宮城県気仙沼市、福岡県大牟田市の3カ所に工場があり、同じ種類の製品の生産を一元化した

り、グループ外での委託生産の比率を下げるなど、効率化が期待されます。

また、需要が拡大する介護食において、かむ力が弱くても無理なく食べることでできる商品を開発しており、病院・施設向けの業務用のほか、家庭で無理なく介護を続けていくための在宅用も製造販売しています。

当社グループの強みであった市販用冷凍食品事業に加え、業務用冷凍食品事業においても販売チャンネル、商品開発体制、生産インフラをフルに相互活用し、冷凍食品事業のさらなる飛躍をめざしてまいります。



DHA・EPA入りフィッシュソーセージの認知機能低下の抑制効果を確認

島根大学他合同グループと実施の共同研究は、参加者を「DHA・EPA入りフィッシュソーセージを食べるグループ」と「オリーブ油添加のフィッシュソーセージを食べるグループ」の2つのグループに分け、2年間の試験を行いました。その1年後の検診により、「DHA・EPA入りフィッシュソーセージを食べるグループ」の認知機能には変化がないことが確認できました。この結果は、食品を利用した認知症予防の可能性を示唆し、予防医学の観点からも大いに期待できるものです。

オメガ3医薬品分野で韓国企業と共同事業契約締結

血液中の中性脂肪を下げる効果のあるオメガ3医薬品は、高脂血症の治療薬として注目されています。オメガ3製品は、DHA・EPAの含有率で食品および医薬品グレードに分類されます。(株)マルハニチロ食品は韓国企業と精製魚油製品メーカーを共同経営し、EPA純度が97%以上の製品を加え、食品から医薬品までのフルラインのオメガ3サプライヤーをめざしてまいります。

企業イメージと商品ブランドを結びつけるCMの集中投下

(株)マルハニチロ食品では、2012年秋に冷凍食品・缶詰のCMと、同社として初となる企業CMの集中投下をし、商品と企業名を大々的にPRしました。CMを行った冷凍食品の「あおり炒めの焼豚炒飯」、「横浜あんかけラーメン」は、CM放映後、通常の2倍近い出荷になるなど、高い効果が得られました。



保管物流 事業



お客さまの物流コスト削減による在庫圧縮の傾向が続くなか、水産物をはじめ畜産品や冷凍食品の集荷営業活動に努めました。

売上高 …………… **15,382** 百万円

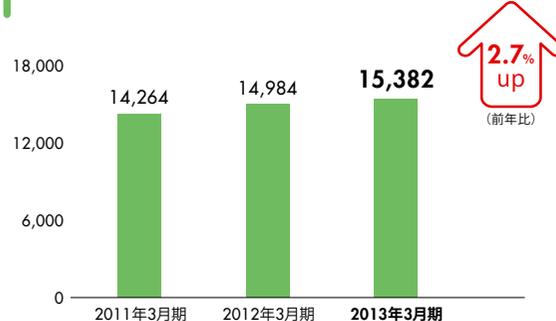
セグメント利益 …………… **1,385** 百万円

2012年度の取り組み

● 保管物流ユニット

当期末の在庫数量は前年同期より減少しましたが、6月から11月にかけて関東地区の大型物流センターを中心に高い在庫水準を確保することができたため、冷蔵保管事業は増収増益となりました。

売上高推移 (百万円)



営業利益推移 (百万円)



保管物流事業トピックス



より効率的な運営を可能にする 新たな物流拠点が2014年に竣工

28,000トンの庫腹、約4,000m²の荷捌き場、ドッグシェルター37基という従来をしのぐ貨物処理能力をもつ「川崎第三物流センター(仮称)」を川崎市東扇島に建造中です。発生が懸念されている直下型地震に対応するため、PC圧着関節工法や積層ゴム免震装置を採用しました。また、高品質維持のための陽圧空調、将来の経費削減を見越したメンテナンスフリーの外壁など、さまざまな新機能を盛り込んでいます。既存2センターとあわせて東扇島地区における庫腹は約100,000トンになり、年々増加傾向にある加工食品をはじめとした多品種・小ロット・高回転商品に対応していく予定です。





マルハニチロ
食品

小鉢倶楽部 **かつお土佐煮**

**食べ切りサイズの
和惣菜缶詰シリーズに新ラインアップ**

お惣菜屋さんをコンセプトにした和惣菜缶詰シリーズに焼津産のなまり節を使用し、鰹節の旨味をきかせて炊き上げた「かつお土佐煮」が登場しました。常温で長期保存ができ、ちょっとしたおかずが食べたいときに、すぐに食べられるので家庭でのストックにも便利です。



フルティシエ

マルハニチロ
食品

**カップデザートの
ちょっと大人向けの新ブランド**

フルティシエの名前の由来は「フルーツ+パティシエ」。上質かつ洗練されたデザートブランドコンセプトに、見た目も美しい、洗練されたデザートブランドを東京都内のパティシエの指導のもと作り上げました。

サーモン& タルタルソース

マルハニチロ
食品

**タルタルソースをトッピングした
2層式フライ**

お弁当にもフィッシュバーガーにしてもおいしいアラスカ産のピンクサーモンの上に、オニオンの風味をきかせた特製タルタルソースをのせた2層式フライです。パッケージには工場所在地の当地キャラクター「くまモン」が登場するなど、楽しさも盛り込みました。



簡単!おいしく! やわらか中華 **中華たまごがゆ**

マルハニチロ
食品

お湯を注ぐだけ! 簡単調理のフリーズドライ介護食

ユニバーサルデザインフードでは初めてのフリーズドライ介護食です。適度なとろみをつけて食べやすくし、高齢者に不足しがちなカルシウム・ビタミンD入りで栄養素にも配慮しています。賞味期限は2年あり、循環備蓄にも最適です。

PREMIUM PIZZA

ピッツアマルゲリータ 2枚入り

アグリフーズ

電子レンジ調理でもっちり&こんがりの本格的なピザを

専門店の窯で焼いたような生地見た目ともっちりとした食感の実現のため、電子レンジ調理に適した配合に、手伸ばし3段階発酵、高温焼成というこだわりの製法で本格的な生地が誕生しました。チーズはミルクィな風味が特長の厳選したモツアレチーズを使用しています。

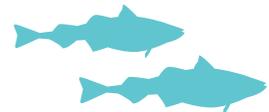


自社調べ、無断転載を禁じます。

水産事業

北米における生産量

(2012年1月～12月累計)



スケソウダラ (原魚ベース)
 全米シェア約 **23%**
 (年間約300,000トン)



カニ類

全米シェア約 **30%**
 (年間約12,000トン)



北米における販売量

(2012年1月～12月累計)



カニかま

全米小売市場シェア約 **48%**
 (年間約58百万ドル)

世界でも有数の漁場である北米・アラスカにおいて、スケソウダラやカニ類の取り扱い量や米国内でのカニかま販売量は高いシェアを誇ります。

日本への輸入量

(2012年4月～2013年3月累計)



エビ
 国内シェア約 **16%**
 (年間約43,000トン)



タコ (西アフリカ産)
 国内シェア約 **30%**
 (年間約8,500トン)



エビは世界各地から、タコは主漁場である西アフリカから、取り扱い量を拡大しています。

ニュージーランドでの漁獲枠保持



外資企業 **唯一**



1990年より外国船の操業規制が強化されているニュージーランドにおいて、マルハニチロは外資企業として唯一漁獲枠を保持しており、ホキやイカを漁獲しています。 [→関連記事17P](#)

国内養殖におけるクロマグロ生産量

(2012年4月～2013年3月累計)



国内シェア約 **20%**
 (年間約1,900トン)

クロマグロ養殖の先駆者であるマルハニチロ。2012年度は、全国生産の約20%にあたる、約1,900トンを出荷しました。

フィリピンでのスジアラ養殖



日本企業 **唯一**

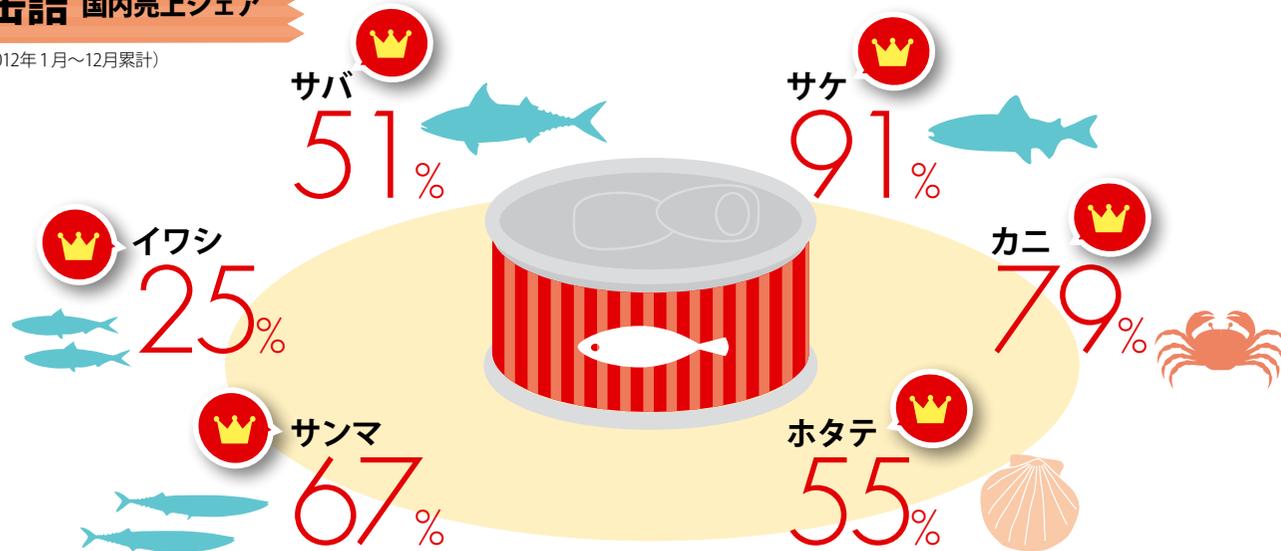


スジアラは高級中華料理に欠かせないハタ系の高級魚。マルハニチロは、日本企業で唯一、フィリピンでスジアラを養殖しており、需要の高まる中国市場に向けた販売に取り組んでいます。

食品事業

缶詰 国内売上シェア

(2012年1月～12月累計)



マルハニチロは、「マルハ」ブランド、「あけぼの」ブランドのサバ・サンマ・イワシ缶詰やサケ缶、カニ缶などのロングセラー商品を多数もっており、青魚(サバ・サンマ・イワシ)の缶詰のシェアは国内で約5割になります。

超ロングセラー商品



半世紀、1世紀以上にわたって愛され続けている商品たち。次の100年をめざし、これからも大切に育ててまいります。

自社調べ、無断転載を禁じます。

市販用冷凍食品 国内売上シェア

(2012年1月～12月累計)



「あけぼの」ブランド、「アクリ」ブランドによる差別化戦略により、2社合計で業界をけん引する高いシェアを誇ります。

DHA(食品用)生産量 国内シェア

(2012年4月～2013年3月累計)

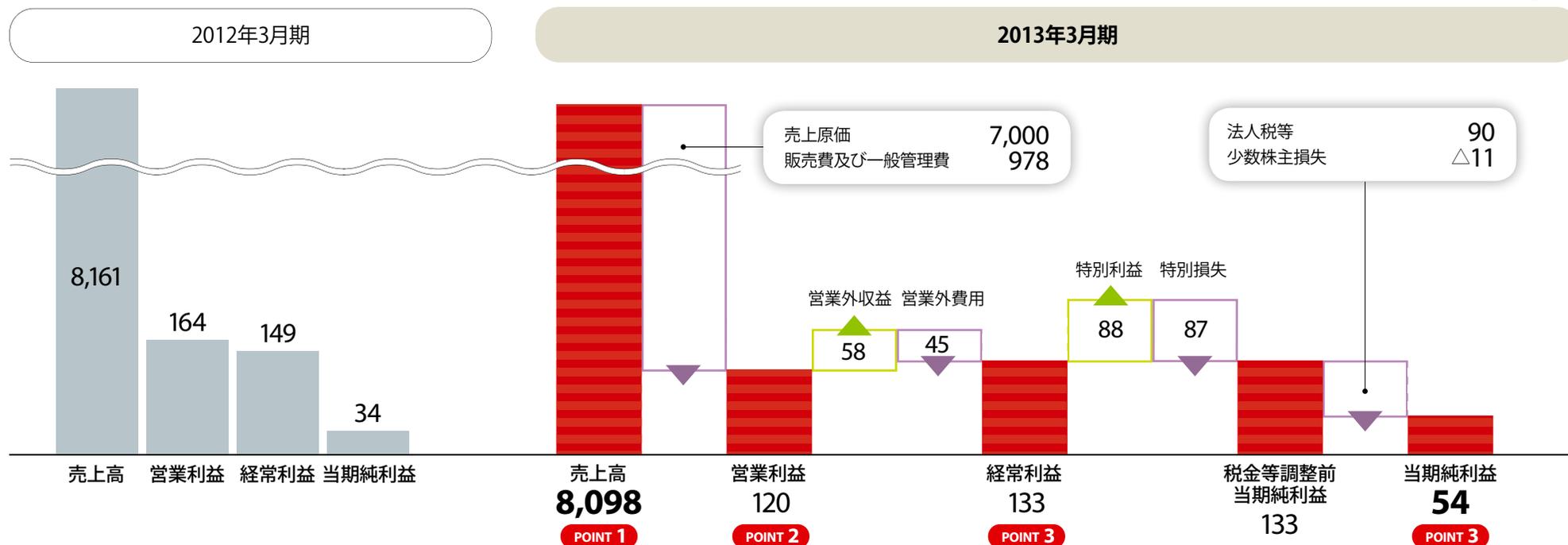


高度な精製技術を誇るマルハニチロのDHAは、国内外の業務用ユーザーから高く評価されています。

財務諸表

連結損益計算書の概要

(単位:億円)



POINT 1 売上高

販売および加工、製造の強化に注力しましたが、売上高は前期に比べ6,332百万円減少し、809,789百万円となりました。

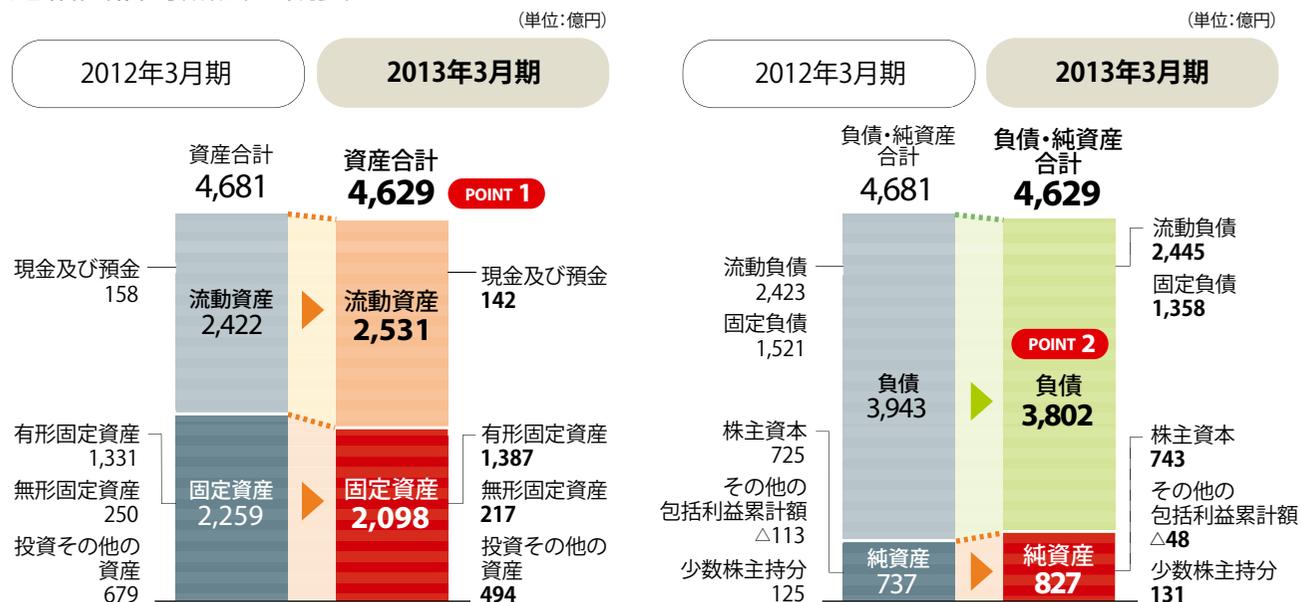
POINT 2 営業利益

生産効率の向上や、コストの圧縮に努めるも、営業利益は前期に比べ4,435百万円減少し、11,996百万円となりました。

POINT 3 経常利益・純利益

経常利益は前期に比べ1,628百万円減少し、13,250百万円となりました。当期純利益は2,063百万円増加し、5,448百万円となりました。

連結貸借対照表の概要



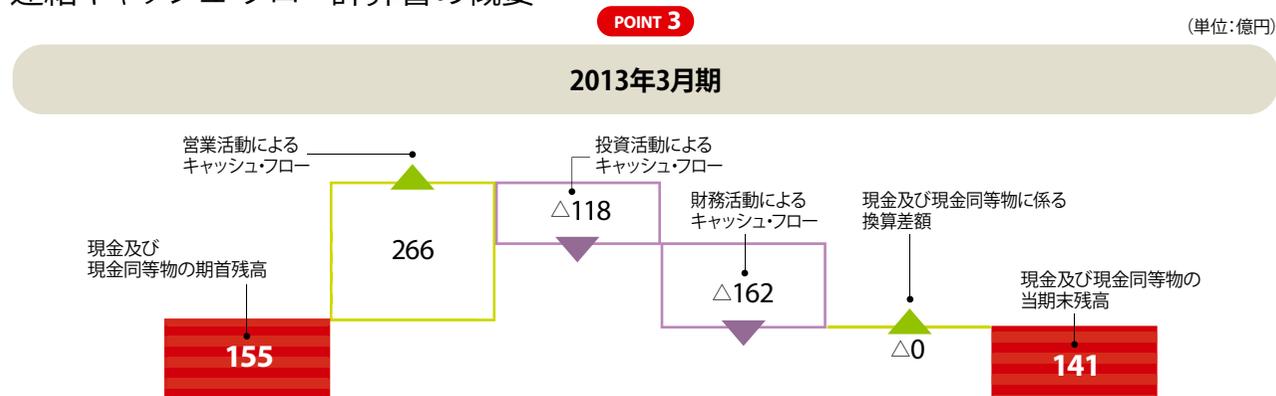
POINT 1 資産

総資産は462,925百万円となり、前期に比べ5,129百万円減少しました。これは、主として投資その他の資産が18,456百万円減少したことなどによるものです。

POINT 2 負債

負債は380,245百万円となり、前期に比べ14,071百万円減少しました。これは、主として借入金および退職給付引当金の減少によるものです。

連結キャッシュ・フロー計算書の概要



POINT 3 連結キャッシュ・フロー計算書

営業活動によって得られた資金は26,585百万円となり、前期に比べ8,216百万円増加しました。投資活動によって使用した資金は、主に設備投資によるもので、11,773百万円となり、前期に比べ3,250百万円増加しました。財務活動によって使用した資金は、主に借入金の返済によるもので、16,153百万円となり、前期に比べ3,004百万円増加しました。当期における現金及び現金同等物の期末残高は14,090百万円となり、前期末に比べ1,383百万円減少しました。



From New Zealand

ニュージーランド

MARUHA NICHIRO in the World

世界各国へ、安定した品質の商品供給を。

水産輸出国ニュージーランドで、 世界の水産物の需要にこたえる。

マルハ(N.Z.)社は、世界で4番目に広い経済水域をもつ水産輸出国、ニュージーランドにおいて水産物の漁獲、生産および販売業務を行っています。当社はウクライナ船籍のトロール船を借入れ、アジ、南ダラ、ホキ、イカなどを漁獲して冷凍魚を生産し、東欧、中国、アフリカ、南米など世界各国に販売しています。日本への輸出はわずか1割程度なのですが、輸出する国数は年々増えています。世界規模で健康志向が強まっていること、その影響で世界の水産物の需要が高まっていることを日々肌で感じています。

長年の生産技術のノウハウを生かして、 安全・安心な魚の安定供給を実現。

常に安定した品質の商品をお客さまは求めてきます。これにこたえるため、ウクライナ船には製品指導の日本人技術者が乗船しています。その効果は大きく、当社ブランドを優先的に購入されるお客さまが増えました。また、効率の良い生産と販売を進める上で、スピード感をもった販売を常に意識しています。世界に広がるマルハニチログループのネットワークを生かし、各国のマーケットニーズを把握するとともに、何を生産すべきかを見極めていきます。今後も安定した品質の商品供給をめざし、顧客の満足度を高めていきたいと考えています。



マルハ(N.Z.)コーポレーション
Maruha (N.Z.) Corporation Ltd.
取締役 八幡 浩史



マルハ(N.Z.)社が
備船するトロール船



船内での加工



冷凍アジ製品

会社概要／役員体制／株式の状況

会社概要 (2013年3月31日現在)

会社名	株式会社マルハニチロホールディングス
所在地	東京都江東区豊洲3-2-20
設立	2004年4月 (2007年10月に、株式会社マルハグループ本社から株式会社マルハニチロホールディングスに社名変更)
資本金	310億円
	174社(国内88社、海外86社) ●連結子会社 87社 ●非連結子会社 25社(うち持分法適用会社4社) ●関連会社 62社(うち持分法適用会社23社)
グループ会社	マルハニチロ水産、マルハニチロ食品、マルハニチロ畜産、マルハニチロ物流、マルハニチロマネジメント、大都魚類、神港魚類、大洋エーアンドエフ、ニチロサンフーズ、ヤヨイ食品、アクリフーズ、アイシア、ウェストワード・シーフーズ、ピーターパン・シーフーズ、キングフィッシャーホールディングス その他

自己株式の取得のご報告

当社は資本効率の向上と、株主の皆様への利益還元を図ることを目的に自己株式の取得を実施いたしました。2012年8月7日～9月18日に実施した自己株式の取得は次のとおりです。

1)取得した株式の総数*	15,489,000株
2)取得価額の総額*	1,999,979,000円

*2012年8月7日に東京証券取引所の自己株式立会外買付取引(ToSTNeT-3)により買付けた株式(総数4,456,000株、取得価額507,984,000円)が含まれております。

役員体制 (2013年6月26日現在)

※社外役員

役職	氏名
代表取締役社長	久代 敏男
代表取締役副社長	伊藤 滋
代表取締役副社長	坂井 道郎
常務取締役	今村 宏
常務取締役	村田 彰徳
取締役・執行役員	渡辺 淳
取締役・執行役員	押久保 直樹
取締役※	長野 彪士
取締役※	中部 由郎
取締役	三田村 知尋
常任監査役※	永井 俊行
常任監査役※	川村 融
監査役	榊 三男
監査役※	兼山 嘉人

ご参考 自己株式の消却

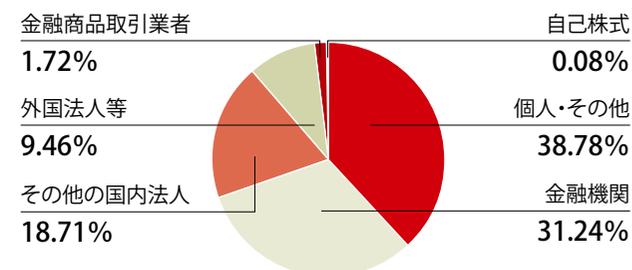
2012年9月28日に自己株式の一部を消却いたしました。

1)消却した株式の種類	当社普通株式
2)消却した株式の数	15,489,000株
3)消却後の当社の発行済普通株式総数	494,535,159株

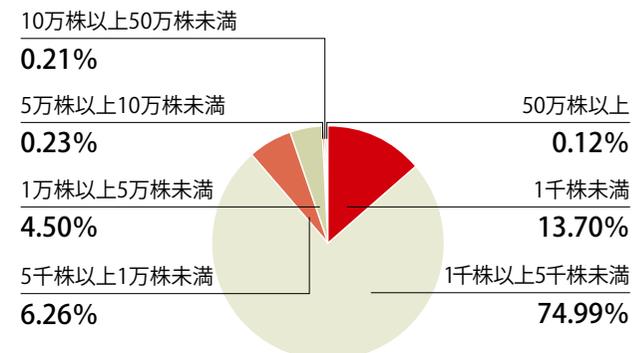
株式の状況 (2013年3月31日現在)

発行可能株式総数 1,196,000,000株	普通株式	1,170,000,000株
	第一種優先株式	26,000,000株
発行済株式の総数 501,265,159株	普通株式	494,535,159株
	第一種優先株式	6,730,000株
株主数	普通株式	76,206名
	第一種優先株式	16名

所有者別株式数分布状況(普通株式)



所有数別株主数分布状況(普通株式)



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会の議決権:毎年3月31日 期末配当:毎年3月31日 そのほか必要があるときはあらかじめ公告して 定めた日
株主名簿管理人・ 特別口座の 口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 フリーダイヤル 0120-232-711(通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告の方法により行います。 公告掲載URL http://www.maruha-nichiro.co.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故、 その他のやむを得ない事由が生じたときは、 日本経済新聞に掲載します。)

ご注意

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にでもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本店でお支払いいたします。

株式諸手続きのご案内

●特別口座に記録された株式

お手続き、ご照会等の内容

- ・特別口座から一般口座への振替請求
- ・単元未満株式の買取(買増)請求
- ・住所・氏名等のご変更
- ・特別口座の残高照会
- ・配当金の受領方法の指定(*)
- ・郵送物等の発送と返戻に関するご照会
- ・支払期間経過後の配当金に関するご照会
- ・株式事務に関する一般的なお問い合わせ

お問い合わせ先

特別口座の口座管理機関・株主名簿管理人
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
フリーダイヤル0120-232-711(通話料無料)

お手続き書類のご請求方法

- ▶音声自動応答電話によるご請求
フリーダイヤル 0120-244-479(通話料無料)
- ▶インターネットによるダウンロード
<http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

(*)特別口座に記録された株式をご所有の株主様は、配当金の受領方法として株式数比例配分方式はお選びいただけません。

●証券会社等の口座に記録された株式

お手続き、ご照会等の内容

- ・郵送物等の発送と返戻に関するご照会
- ・支払期間経過後の配当金に関するご照会
- ・株式事務に関する一般的なお問い合わせ

お問い合わせ先

株主名簿管理人
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
フリーダイヤル0120-232-711(通話料無料)

上記以外のお手続き、ご照会等

口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。

株主優待

当社では、株主の皆様の日頃のご愛顧におこたえするとともに、当社株式を長期に保有していただける魅力あるものにするを目的として株主優待制度を実施しております。

1対象株主様と 実施の内容	毎年3月31日の最終の株主名簿に記載または記録された1千株(1単元)以上を保有していただいている普通株主の皆様を対象として、年1回実施いたします。
2優待の内容	当社グループで取り扱っている商品の無償提供を行います。

「なでしこ銘柄」に選定されました

(株)マルハニチロホールディングスは、2013年2月、経済産業省と東京証券取引所が公表した「なでしこ銘柄」(女性活躍推進に優れた上場会社)に選定されました。

● 経済産業省ホームページ
<http://www.meti.go.jp/policy/economy/jinzai/diversity/nadeshiko.html>



ホームページ、Facebookページのご案内

(株)マルハニチロホールディングスでは、ホームページおよびFacebookページを通じて、株主のみなさまのお役に立つ情報をタイムリーに公開しています。ぜひご利用ください。

- ホームページ
<http://www.maruha-nichiro.co.jp/ir/>
- Facebookページ
<https://www.facebook.com/MaruhaNichiro>

世界に美味しいしあわせを

株式会社マルハニチロホールディングス

〒135-8603 東京都江東区豊洲三丁目2番20号 豊洲フロント
TEL:03-6833-4134 FAX:03-6833-0396